

平成27年度BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名: 精神医療センター

	BSCの当初目標設定内容					アクションプラン実績	数値目標実績	4段階評価	評価・今後の対応
	戦略的目標	業績評価指標	数値目標	主なアクションプラン					
顧客の視点	患者サービスの向上	・入院患者満足度(5点評価換算)	4.4	1 患者満足度調査の実施・接遇の向上	○	1. 7/22職員接遇研修実施(出席者:57名)。外来満足度(10/19~23)、入院満足度(1,2B:11/1~30,3B:10/1~31)、デイケア満足度調査(10/5~16)を実施。	3.6	B	1. 当初予定から時期等が変更となった調査もあったが、全て年度内に実施することができた。 2. 精神的に患者からの苦情・意見を集め、これらに真摯に対応した。文書回答は6件した。 3. 新患者予約業務を外来から地域生活支援部に移行し、入院から退院まで精神保健福祉士が関わることとした。 4. 発達障害用に関発されたプログラムの一部をコミュニケーションプログラムとして試行した。
		・外来患者満足度(5点評価換算)	4.4	2 患者さんからの意見徴集(かすみ草)の実施	◎	2. 毎月の管理会議に当月分を報告。平成27年度分(63件)	3.9	B+	
		・デイ・ケア満足度(5点評価換算)	4.4	3 相談機能の充実	◎	3. 受診相談から精神保健福祉士が関わり、入院当初から支援や相談に入ることが出来た。	4.0	B+	
				4 地域生活の基盤となる社会生活能力の向上	◎	4. 地域移行について、進捗状況を見極めながら順次進めることができている。			
	政策医療の推進	・措置鑑定医の派遣(院内鑑定を含む)	80	5 保健所・警察・消防・精神科救急情報センター等との連携強化	◎	5. 目標値を下回っているが、措置鑑定医の派遣依頼など、当センターの努力だけでは増やせない事情もある。	50	B+	5. 簡易鑑定13件、医療観察法鑑定入院も1名あった。司法・行政機関等と緊密に協力できた。 10月から1月間、個室工事があったが個室運用の調整により、緊急時の空床確保は維持できた。 6. 外部からの救急要請に常時、応えられる体制の整備を図っている。 7. 医療観察法病棟を除くと、訪問看護体制の強化などにより、比較的早期に退院させることができる事例が増えている。(1,2病棟:88.5日) 8. 入院が長期化しないよう、退院促進を行う。 9. 年内はほぼ満床であったが、1月以降は退院4名に対し新規対象者の受入れがなく、19床の利用となっている。
		・救急情報センター通報入院患者数	20	6 救急医療の充実・救急システムによる患者受入と空床確保	◎	6. 目標値を下回っているが、精神科救急医療システムでの患者受入れなど、当センターの努力だけでは増やせない事情もある。	109	B+	
		・救急・緊急診療の受入件数	150	7 入院直後から始める退院支援	○	7. 病床管理委員会で支援対象者の状況把握、計画策定。	115.9	B	
		・平均在院日数	100日以内	8 退院に向けた地域医療機関との連携と協働(個別の退院支援会議の開催)	◎	8. 6ヶ月以上入院患者の退院は15名。			
		・指定入院(20床)病床利用率	100%	9 医療観察法に基づく入院病棟体制を整え、対象者を円滑に受け入れる	◎	9. 近畿厚生局等関係機関と連携を図りながら、対象者の受入れを促進。	91.8	B+	
	民間病院との役割分担	・アルコール延べ患者数(外来)	2,500	10 アルコール外来の充実	◎	10. 外来での集団認知行動療法プログラムをコンスタントに実施。	2,419	B+	10. 6月から滋賀刑務所での薬物依存症の教育プログラムを定期的に実施している。 11. 「発達障害を学ぶ家族会」を通年で開催することができ、好評であった。
		・思春期延べ患者数(外来)	1,250	11 思春期外来の充実	◎	11. 思春期精神障害スタッフ会議を実施。	934	B+	
地域医療機関との連携強化と支援	・紹介率(精神科)	45.0%	12 精神科クリニックや病院からの紹介促進	◎	12. 外来新患該当者の予約制を維持し、紹介患者を確実に受け入れている。	43.8%	B+	12. 12月から滋賀医大精神科の非常勤医師5名が外来に配置され、新患のみの診察に従事することになり、新患数が増えるとともに診察日までの待機日数を大幅に短縮することができた。 13. 県下の研修会や勉強会には積極的に参加し、大学や県内各病院と緊密な交流を持つ事ができた。特に下半期は、滋賀医大精神医学講座との交流が活発であった。 14. 下半期は更に保健所での技術協力の件数が増えた。少ない人員の中、何とかニーズに応えることができた。 15. 2月に従来のHPから県庁CMSに移行し、見やすく、検索しやすい構成となった。 16. 掲載記事について検討し、引き続きセンターたよりを発行。見学者や就職説明会等にも活用している。	
	・病院協会・精神病院協会主催の研修・会議への協力参加数	33	13 民間病院との交流	◎	13. 関係団体の研修会に積極的に参加。	35	A+		
	・地域精神保健福祉活動への支援活動回数	70	14 地域保健所等との連携強化	◎	14. 長浜および彦根保健所ではアルコール・ギャンブル依存についての専門相談を実施。	61	B+		
広報活動の推進	・ホームページのアクセス数	11,500	15 ホームページの充実(公開講座等の案内)	◎	15. 随時、内容充実のためのHP更新を行っている。	8,789	B+	17. 対前年度で入院患者数は増加したが、 外来患者数の減少 と人動の影響や費用増加等により昨年度に引き続き経常損益での赤字となった。 新患外来予約枠を確保し、県民ニーズに 応えているところであるが、赤字解消に向けて収支両面から改善に向けた取り組みを早急に実施する必要がある。 18. 事業庁による医薬品についての価格交渉の取り組みにより、経費の削減が一定図られた。また、材料の購入については、複数業者から見積徴取すること等により、引き続き経費削減に努める。	
	・院外広報紙の発行回数	3	16 院外広報紙発行による積極的な病院情報の発信	◎	16. 計画どおりセンターたよりを発行するなど、当センターの情報を発信している。	3	A+		
財務の視点	収支改善	・医業収支比率	73.3%	17 収益の確保と費用の削減	○	17. 収益の確保と費用の削減の実施。 18. 医薬品は3センターでの共同購入を実施。事業委員会で後発医薬品の選定を行う。また、物品購入や材料見直しにあたって複数業者からの見積徴取やサンプル活用等を行った。	70.5%	B	19. 上半期の空床確保率は85.3%と昨年度より低下していたが、下半期の個室改修工事により8床増床した結果97%と上昇した。今後は、より効果的な病床運営を行うために、長期入院患者の退院促進が一層必要となる。 20. 新たなプログラムにより、急性期病棟での個別作業療法を重点的に実施した。その結果、昨年度は350件だったが、本年度は400件と増加している。 21. 初期のカンファレンスにおいて、地域支援部との情報共有により入院時より訪問看護ステーションに繋いでの計画が出来るようになった。その結果、28件の患者を最初から訪問看護ステーションに繋ぐことができた。
		・医業収益に占める職員給与費の割合	86.3%		○		92.6%	B	
		・診療収益(デイケアを除く)に占める材料費の割合	10.2%		○		10.3%	B	
	急性期患者対応の拡大			19 ベッドコントロールの充実	◎	19. 病床管理委員会で毎月病棟の患者動向等を話し合い、空床確保の調整を実施した。			
		・病床利用率	81.9%	20 急性期回復後の早期精神科リハビリテーションの構築	○	20. 個別対応の枠を拡大出来ないか検討が必要である。	71.9%	B+	
			21 訪問看護ステーション等との連携の構築	◎	21. 入院時から病棟、外来、地域が連携し、訪問看護ステーションとの連携構築につないでいく。				

平成27年度BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名: 精神医療センター

	BSCの当初目標設定内容				アクションプラン実績		評価・今後の対応		
	戦略的目標	業績評価指標	数値目標	主なアクションプラン		数値目標実績	4段階評価		
内部プロセスの視点	医師確保の推進	・常勤医師の定数に対する充足率(月次数値の年間平均値)	78.6%	22 医師の招聘に向けた働きかけ	○	22. 研修医(演習)の受入拡大、医師による個人的な働きかけの強化、大学への要請の継続、病院HPによる情報発信の強化の4チャンネルで取組。	64.3%	B+	22. 常勤の医師確保は出来なかったが、滋賀医大への協力要請を行い、新患外来予約システムを変更し、下半期に滋賀医大から非常勤医師6名が外来診療に従事することができた。
			23	臨床研修医の採用推進、臨床研修医の受入	◎	23. 大津市民病院、成人病センター、滋賀医大の研修医を受け入れ			
	医療の質の向上	・カンファレンスの実施件数(多職種) ・アクシデント件数(レベル3b以上)	1,000	24 多職種間での情報共有	○	24. 効果的なカンファレンスの評価・見直しについての検討。	815	B	24. 退院に向けた長期入院患者の効果的なカンファレンスについては、今後の課題である。回数815件(外来:120件、1B:223件、2B:154件、3B:318件)
			3以内	25 インシデント・アクシデント報告結果の分析と対策、対策結果の評価	○	25. 医療安全担当医師が積極的に研修に出席。	5	B	25. 活発に医療安全活動を実施したが、アクシデント(レベル3b以上)発生件数は5件であった。
	精神科医療の専門性の充実	・クリティカルパスの利用患者数	35	26 クリティカルパスの有効活用・見直し	◎	26. アルコールリハビリプログラム(ARP)とクロザリル服用患者においてパスを運用。	104	A+	26. 11月から滋賀医大麻酔科の協力を得て、修正型電気痙攣療法(mECT)を当センターでも実施できるようになった。これについてもパスを作成し、使用していく予定である。
業務改善の推進	・一人当たり時間外勤務時間数(月)	20.0	27 業務改善、労務環境の調整	◎	27. 制度の周知について実施。	9.3	A+	27. 光トポグラフィーによる保険適用のための施設基準を満たすため、各部署が協力対応した。	
		28	効果的な会議の推進(時間短縮)	◎	28. 会議、委員会等を適時、適切に開催				28. 時間外勤務時間が、前年度より△551時間と減少した。引き続き、削減に向けて進めていく。
職員満足度の向上	・「今後もこの病院で働きたい」肯定者割合	80.0%	29 職員表彰の促進	◎	29. 院内行事として4月に前年度表彰者の表彰式を実施。制度の周知について実施済み	88.0%	A+	29. 5件の表彰応募(推薦)があり、4月1日に表彰した。	
			30	職員満足度調査の実施、回収率の向上、病院運営への反映	◎				30. 6/26～7/17に調査実施済み。
学習と成長の視点	教育・自己啓発の機会確保	・研修・学会への参加回数(職員一人あたり年間回数)	1.5	31 院外研修会への参加促進	◎	31. 32. 各部署へ関係機関が実施する院外研修や投稿などを周知し、職員が積極的に参加するよう努めた。	2.2	A+	31. 各部署へ全国自治体病院協議会や県病院協会等が実施する院外研修を周知し、職員が積極的に参加できるよう努めた。
			32	院外に向けた研究論文発表、学会発表、専門誌への投稿促進	○				
	職員教育の充実	・全職員向け研修開催回数	20	33 職員向けの内部研修会の開催	◎	33. 各部署へ内部研修等を周知し、職員が積極的に参加するよう努めた。	29	A+	33. 当センターの専門、認定看護師が中心となり、毎月、県内医療機関関係者を対象とした研修会を開催するなど学習や交流の場となっており、県立病院の果たす意義は大きい。